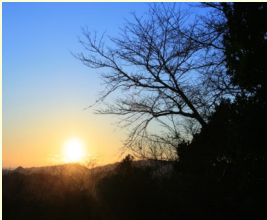


J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



皆様、新年あけましておめでとうございます。たくさんの方のおかげで、J-DAVID試験は文字通り全国規模に成長いたしました。2010年が良い年になりますよう、これからも一層応援いただきますよう、心よりお願い申し上げます。今回は「新年特大号」として、頁数を増やしております。

世話人からのメッセージ

「ビタミンD研究の新たな展開」

渡邊 有三先生（春日井市民病院）

研修医生活を始めた名古屋第一赤十字病院に腎臓内科はなく、担当した末期腎不全患者に対して十分な治療を施せず、心不全で苦しむ患者を看過するしかなかった。そこで循環器部長に懇願し、腹膜透析の機械を購入して頂き、独学で腎不全治療を始めた。これが循環器病学から腎臓病学への転進を目指す契機であったが、大学へ帰局した昭和53年に関連病院である増子記念病院で出会った症例は、自分が骨代謝に興味を持つ理由ともなった重要な経験であった。彼は40歳代で、身長が短縮し、胸郭が釣鐘様に変形していた。骨のX線写真は教科書通りの典型的な二次性副甲状腺機能亢進症であり、副甲状腺摘出術が予定された。彼は長野の透析施設で治療を受けていて、名古屋で治療を受けるために到着した名古屋駅の階段で転倒し、大腿四頭筋腱断裂というおまけまで背負い込んだ。しかし、手術により痒みや関節痛などの症状は劇的に改善した。彼の喜びは、術後管理のために二晩泊り込み、血清Ca濃度をチェックしながらカルチコールを静注した苦勞を忘れさせるほどのものであった。RIAによりPTHも測定できるようになりCa代謝への興味が深まった。

腎臓内科学が確固とした病因・治療を提供できず、形態学の限界をも感じていた私にとって、理論的に行われる透析治療、そして当時始まった活性型ビタミンDの臨床試験は非常に科学的なものであり、骨代謝研究が自分の重要な課題となった。しかし、万能薬と考えられた活性型ビタミンDであっても抵抗例が存在すること、保存期腎不全患者への投与が腎機能悪化に関与

することなど、解決されない問題も当時から存在した。当時は昭和大学の須田教授が白血病細胞の分化誘導につながるという研究をされ、乾癬に対してもビタミンDが有効であるということが証明され、ビタミンDはCa代謝だけでなく多面的な作用があることへの関心は高まっていた。しかし、腎透析領域では治療抵抗例に対するPTH抑制、血清Ca・P代謝への影響という面がクローズアップされ、そのような方面での討論が主流となり、透析患者におけるビタミンDの有用性というより、ビタミンDによる血管石灰化という副作用の方ばかりが論議され、何時の間にかビタミンDが投与されない患者が増加するという奇妙な事態が生じてきた。

このような折に、庄司先生たち大阪市立大学グループは活性型ビタミンDを服用している患者群の方で生存率が良いという重大な報告を行った。その後、様々な観察研究が行われ、ビタミンDの有用性は確実なものとなりつつあるが、前向き研究はほとんどないというのが実情である。このような機会に行われるJ-DAVID研究はまさに時を得たものである。透析領域では、活性型ビタミンD、エリスロポエチン、ビタミンDアナログ、塩酸セベラマー、シナカルセトなど、透析患者の管理に重要な薬剤が次々と開発され、その科学的背景も常に確固たるものであった。本研究を進めることにより、患者の生存率改善に対する重要な情報が提供されることを切に願うものである。皆様のご協力をお願いします。



最新進捗状況

現在、全国での症例登録数は401例となりました。
 累計登録数のランキング・進捗状況等を報告致します。(12月21日現在)

都道府県別登録一覧

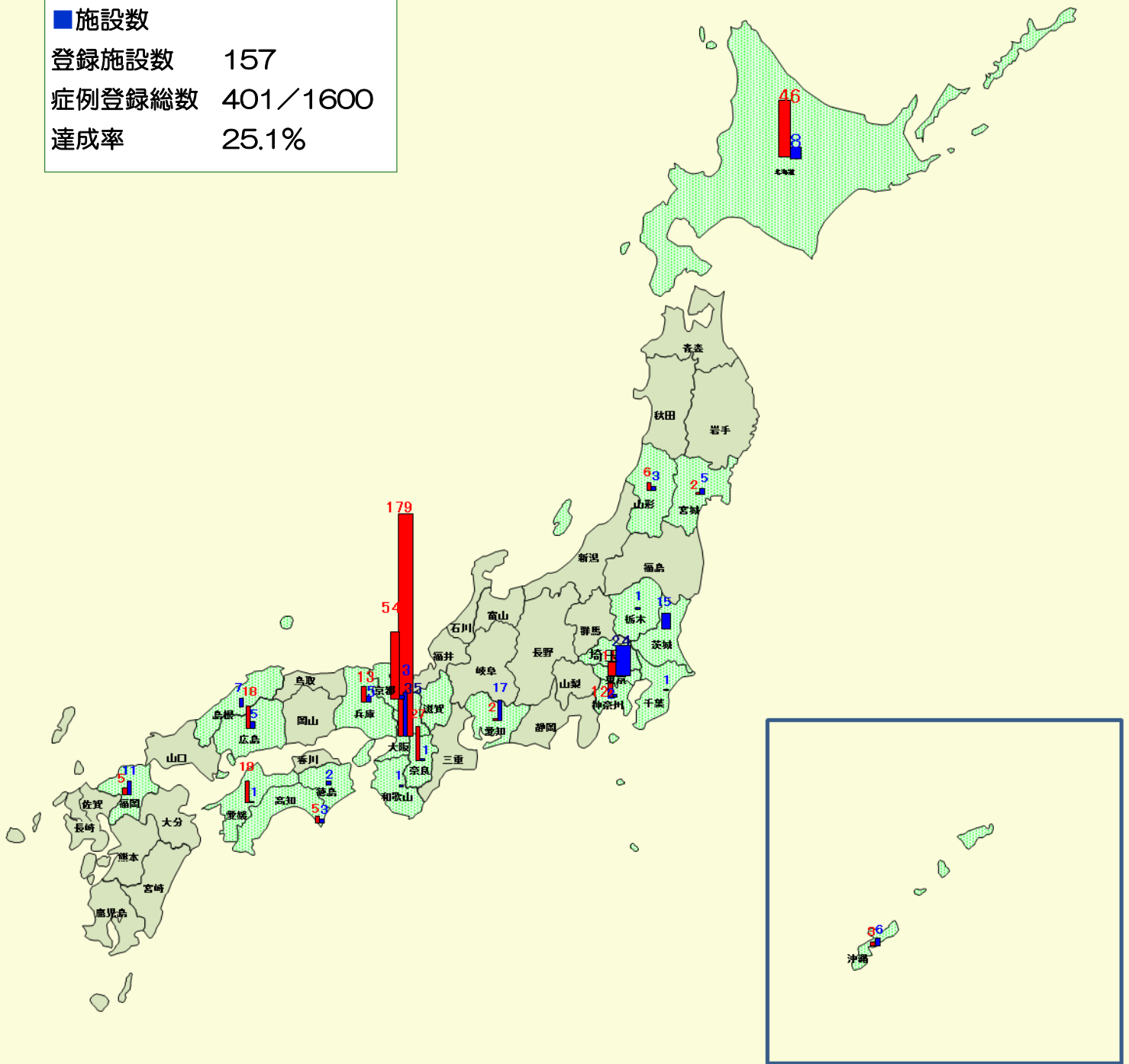
■ 症例登録数

■ 施設数

登録施設数 157

症例登録総数 401 / 1600

達成率 25.1%



各地区登録進捗

地区	施設数	累計登録数	今月登録数
北海道	8	46	2
山形	3	6	6
宮城	5	2	0
東京	24	11	7
栃木	1	0	0
茨城・千葉	16	0	0
神奈川	2	12	0
愛知	17	2	0
大阪	40	192	33
奈良・和歌山	2	27	4
京都	3	54	0
広島	5	18	0
島根	7	0	0
徳島	2	0	0
高知	3	5	3
愛媛	1	18	0
福岡・佐賀	12	5	0
沖縄	6	3	0
合計	157	401	55

症例報告書回収状況報告

登録	観察開始時	3カ月	6カ月	12カ月
401	221	121	87	12

クエリー回収状況報告

	観察開始時	3カ月	6カ月	12カ月
発行件数	225	121	50	2
回答受領件数	119	74	25	0



累計登録数ランキングTOP20

順位	施設名	登録件数
①	井上病院／大阪	55
②	桃仁会病院／京都	47
③	翠悠会診療所／奈良・和歌山	27
④	永山クリニック／大阪	21
⑤	佐藤循環器科内科／愛媛	18
⑥	大野記念病院／大阪	15
⑦	北彩都病院／北海道	14
⑦	小野内科／大阪	14
⑦	大町土谷クリニック／広島	14
⑩	湘南鎌倉総合病院／神奈川	12
⑪	札幌北クリニック／北海道	10
⑪	小尾クリニック／大阪	10
⑬	白鷺診療所／大阪	9
⑭	札幌北榆病院／北海道	8
⑭	東室蘭サテライトクリニック／北海道	8
⑯	明治橋病院／大阪	7
⑯	北巽白鷺クリニック／大阪	7
⑯	田仲はびきのクリニック／大阪	7
⑯	西陣病院／京都	7
⑳	苫小牧日翔病院／北海道	6
⑳	岡田クリニック／大阪	6
⑳	堺温心会病院／大阪	6

12月度登録数ランキングTOP5

順位	施設名	登録件数
①	永山クリニック／大阪	21
②	明治橋病院／大阪	7
③	腎内科クリニック世田谷／東京	5
④	翠悠会診療所／奈良・和歌山	4
⑤	天童温泉矢吹クリニック／山形	3
⑤	高知高須病院／高知	3

最近の文献から

透析を要する慢性腎臓病患者に対するビタミンD化合物

Vitamin D compounds for people with chronic kidney disease requiring dialysis.
Palmer SC, et al. Cochrane Database Syst Rev Issue 4 頁CD005633

【ポイント】

診療ガイドラインでは、CKD患者のPTHレベルを低下させるためにビタミンDを推奨しているが、Ca、Pを上昇させることがあり、死亡率を高める可能性がある。一方、観察研究では、これらとは独立してビタミンDは低い死亡率と関連している。この総説では、CochraneのCENTRAL、MEDLINE、EMBASEなどのデータベースから抽出した透析患者における60のRCT(2773症例)によるメタ解析である。プラセボと比較してビタミンD化合物投与が、PTHを下げるか(yes)、Caを上げるか(yes)、Pを上げるか(yes)、ビタミンDアナログ製剤といわゆる活性型ビタミンD製剤との比較はどうか、死亡率にはどうか(十分なパワーがない)などが検討されている。

詳しくは http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list_uids=19821349

ビタミンD受容体遺伝子多型は末期腎臓病患者の左心室重量と左室肥大進行に関連する

Vitamin D Receptor (VDR) Gene Polymorphism is Associated with Left Ventricular (LV) Mass and Predicts LVH Progression in End Stage Renal Disease (ESRD) Patients
Testa A, et al. J Bone Miner Res. 2009 Jul 20. [Epub ahead of print]

【ポイント】

イタリアのZoccaliのグループによる報告。182症例の透析コホートにおいて、VDR遺伝子BsmI多型のBアレル数はLVMIと正相関し、多変量解析でも有意であった。18カ月の追跡でLVMIは増加し、Bアレル数と関連した。これらは、ビタミンDシグナル伝達は左室肥大に重要であるとの仮説を支持する結果である。

詳しくは http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?cmd=Retrieve&db=PubMed&dopt=Citation&list_uids=19619002

J-DAVID事務局からお知らせ



400症例突破！J-DAVID加速中

月別登録数が10月19症例、11月30症例、12月55症例と着実に伸び、2009年内に400症例を突破することができました。これも一重に先生方の「熱き心」によるものと、事務局一同、大変感謝しております。参加施設数も160施設突破は確実に、目標の1600症例に向けて、2010年6月30日まで更なる加速を期待しております。事務局は、現在CRC業務を委託している株式会社アイロム、アイオロパス以外にも、複数のSMOへの業務委託を依頼すべく折衝しており、「スピード感」アップを目指しています。CRCなしで登録いただいた御施設には、CRC費用相当分を施設にフィードバックいたしますので、後日ご連絡させていただきます。今年もJ-DAVIDにお力をお貸しいただきますよう、よろしく願い申し上げます。

ご登録に際するお願い

- ・確実に書類等をお届けするために、ご登録頂いている先生以外に実務御担当医がいいらっしゃる場合は、J-DAVID事務局にご連絡頂けますよう宜しくお願い致します。
- ・症例登録後、こちらから登録結果をFAX送信致しますので、2～3日中に用紙が届かない場合は恐れ入りますが、事務局までご連絡頂けますよう宜しくお願い致します。
- ・FAX送信の際に、受信確認のお電話を致しますのでご了承下さい。

編集・発行：J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 内
データセンター
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
電話・FAX 06-6646-3105

ホームページもご覧下さい。
<http://j-david.info/>